

私たちの会費が日本平和委員会と茨城県平和委員会の活動を支援しています

# 土浦平和の会

ニュースNo. 170 2006年7月

発行 土浦平和の会

事務局 土浦市神立町2664-2

TEL 831-9122

URL [http://www.geocities.jp/ino011\\_jp/](http://www.geocities.jp/ino011_jp/)

## 平和行進(石岡 土浦コース) 無事終了



雨が心配されていた06年国民平和大行進は 幸いに雨も無く、カンカン照りもなく7月7日石岡 土浦コースを終えて、つくばに引き継ぎました。

亀城公園では例年と同じに 新日本婦人の会土浦支部のおにぎりと土浦平和の会の麦茶が出されて 参加者の疲れを癒しました。

昼食後歓迎集会が行なわれ、地元実行委員会と久松市議の歓迎あいさつ、通し行進者のあいさつ、土浦市長からのメッセージ代読の後亀城プラザ前から出発しました。

小岩田の休憩所では保健生協土浦支部、

茨城コープ平和グループポッポの会の接待で麦茶、レモン、トマト、飴などがふるまわれました。

右叡の補給処では阿見平和の会水野氏の説明で陸上自衛隊の武器補給処、航空学校、パトリオット、武器学校について学びました。先頭集団が意外と元気だったためと、休憩時間を節約したため、終点の荒川沖駅へは4時15分に到着しました。先頭を歩いたのは通し行進者の県平和委員会加藤氏と久松市議でした。石岡からの行進参加者は約40人。亀城公園からの参加者は70人。接待など裏方さんを含めて100人を超す参加者でした。

### 原水爆禁止世界大会-広島

8月4日(金) ~ 6日(日)

第2回世界青年のつどい in ヒロシマ

参加者募集中 連絡先 831-9122



私たちの会費が日本平和委員会と茨城県平和委員会の活動を支えています

## 語られなかった原爆

「ピカドン」の語は原爆投下後間もない頃生まれた記憶がある。その強烈な閃光は40キロ離れた私の街でも稲妻のようにはっきりと目に飛び込んできた。それから何秒か後にドーンという鈍い音が聞こえてきた。それから何十分か後にはるか向こうの山の上にあのきのこ雲がもくもくと頭をもたげて来た。雲ひとつ無かった紺碧の真夏の空はやがてどんよりと曇り、燃えカスや紙切れが降ってきた。昼前には急に雨が降り始めた。ヒロシマから逃げ帰ってきた被爆者が昼間でも蚊帳の中で寝ている。傷口に蠅がたかるからだ。1日に何度も包帯を取り替えながら、やがて息絶えていく。

この間ヒロシマで何が起こり、人々はどのように焼かれ、死の灰を浴びたのか。

写真集がある。被爆後の街やケロイドの人たちが写されている。

「原爆パネル」がある。燃える街と幽霊のように皮膚が垂れ下がった人々の群れが描かれている。

ヒロシマの原爆資料館には熱線に溶かされた瓦や生活用具が展示されている。しかし、それはもう過ぎ去った歴史として、遠い街の出来事として、実感を伴って伝わってこなくなっているのではないかという気がしてならない。

先日肥田舜太郎さんの「ヒロシマを生きのびて」という講演を聴いた。原爆投下の直後に被爆者の治療に当たった生々しい話である。軍医肥田先生は往診のため近郊の戸坂村にいたため、原爆に遭わなかった。ヒロシマの異変を知った肥田さんはヒロシマに戻ろうとするが、途中で被爆者の群れに出会う。顔が無い。真っ黒に焼け爛れている。身体はボロが垂れ下がっている。焼け爛れた皮膚が垂れ下がっているのだ。道は被爆者の群れで塞がってしまう。川に飛び込んでヒロシマに向かうと、ある橋をくぐったとたんに目の前は火の海。ヒロシマの街が火柱となって燃えている。川岸は死体が積み重なっている。肥田さんは戸坂村に戻って被爆者の治療に当たります。熱線に焼かれた人たちは数日のうちに死に絶えてしまいます。しかし、その後は無傷の人たち、肉親を探しにヒロシマに入った人たちや救援に駆けつけた人たちが1週間後の終戦のころから歯茎から出血し、40度の高熱にうなされ、熱い熱いと布団をかきむしりながら、紫の斑点が出来てつぎつぎに息絶えていきます。

新藤兼人の「原爆を撮る」を読んだ。爆心から1キロで被爆した演劇人たちの様子が克明に書かれている。倒壊した家の中で押しつぶされて死んだ仲間は小指くらいの骨片となって灰に埋もれてしまう。瓦礫の中から這い出した人たちは焼け跡をさまよひ、知り合いを頼って行くが、1週間後には歯茎の出血、血尿、高熱にうなされ、頭髪は抜けて死んでいく。ヒロシマの現場ではそれが何故か判らない。東京に逃げ帰って東大病院に入院した仲間の白血球は300~400に減っていたという。

米軍とGHQは治療に当たった医師の情報交換も研究も禁止したという。原爆症は軍事秘密として講和発効までベールに覆われてしまったのだ。ヒバクシャたちも被爆を隠し続けた。その間も毎年何千人の命が失われていった。60年経った今でも何百人も死んでいく。

肥田さんが「戦争はしてはならない。」「核兵器は使わせてはならない。」「憲法九条を守らなければならない。」と語られることには実感がこもっています。 井上 仁志

### 活動ごよみ

7・ 1 県常任委員会（水戸市）  
7・ 7 平和行進（石岡 土浦コース）  
7・ 9 原子力空母配備・米軍再編反対集会  
（横須賀ヴェルニール公園）  
7・20 平和の会理事会（保健生協事務所）

8・4~9 原爆展（県南生涯学習センター）  
8・ 5 ピースデー（はだしのゲン上映、被爆者の体験談、土浦市平和使節団報告）  
8・12 2006年平和のつどい（土浦市民会館）  
講演「はだしのゲン」